

令和 6 年度施策評価シート（橿原市第4次総合計画 前期基本計画）

最初に：各施策分野の目指す姿を意識する。1の「保育・幼児教育」では、「子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢や希望を描いている」の「子どもが自分の個性や能力を伸ばす」と「子どもが夢や希望を描く」が達成できているかを考える。

記載例

1. 概要			
政策	V	市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営	担当課室
施策分野	27	行政運営	企画政策課 外20課室
目指す姿	持続可能な行政マネジメント方針 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営		

① 施策分野の番号を選択する。

② 施策分野の進捗度を選択する。

③ 施策分野の成果を記載する。主に令和 6 年度に達成できたことやその根拠を目標施策分野の目指す姿に関連付けて記

2. 成果と課題			
指標名	市民目線でしっかりした行政運営がなされていると感じる市民の割合		
実績値	令和2年度	20.4 %	令和5年度 14.4 % 令和7年度
目指す姿に向けた課題	<p>市内のDXは推進していますが、デジタル技術の活用により職員の業務時間の削減が合計約 10,000 時間と目標に達しておらず、市民の信頼を得られるところまで至っていません。また、財政調整基金の残高が約 30 億円と予算を許さない状況であり、市民に信頼される財政運営のためには、課題があります。</p>		
	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
	進捗度の根拠や成果	<p>市内DX化を推進するため、デジタルを利用した新たな行政手続きを導入し、行政手続きのオンライン化率を行政手続き全体の約 15 % まで引き上げたことにより、行政サービスの向上を実感している市民の割合が 50 % となり、目標の 40 % を超えました。また行財政改革を推進し、財政調整基金を取り崩さず新年度予算の編成を行ったことから、財政危機宣言を解除することができました。</p>	
	今後の方針	<p>市内無線LANの配備やWeb会議システム等の導入により、職員の業務時間の削減を推進します。持続可能な財政運営のために、事業のスクラップアンドビルドを継続します。</p>	

⑤ 進捗度の向上に向けた今後の方針や取組みを記述する。過去形では記載しない。

3. 目指す姿の実現に効果があつた事務事業（効果があつた順序順）	
効果があつた事務事業	担当課室
① ICT推進事業	デジタル戦略課
② 財政管理事務	財政課
③ 行政改革事務	企画政策課
④ 市民窓口事務	市民窓口課
⑤ 市民税等賦課事務	市民税課

④ 施策分野の進捗度 B～D の場合は、達成できなかった課題を記述する。A の場合は、将来の課題を記述する。

⑥ 体系付けられている事務事業のうち、施策分野の目指す姿の実現に効果があつた上位 5 つを挙げ、施策分野の目指す姿への効果と根拠を記述する。エビンス（根拠）を示すと、分かりやすくなる。あくまで、令和 6 年度にできたことを記載する。

総合政策審議会からの提言等

記載例であり、実際の施策や事務事業の内容とは異なりますので、注意してください。